



山本 昌子

映画監督
ACRAプロジェクト代表



生後4か月から乳児院、児童養護施設、自立援助ホームで育つ。現在は、児童養護施設出身者へ振袖を着る機会を提供し、「生まれて来てくれてありがとう」を伝えるボランティア団体の代表として活躍。コロナ禍をきっかけに全国の社会的養護出身者とオンラインで繋がり、食品や洋服の支援を行う中で、児童虐待の苦しみと今も戦い続けている若者たちがあまりにも多いことに気付く…



REAL VOICE

オフィシャルサイト

● 応援 VOICE

「だいじょうぶこの世界は愛にあふれている
そうやって、背中に手を添えてくれる
仲間がいるんだということを、まこちゃん
は たんたんと実行して教えてくれる。
あなたがいてくれてよかった、ありがとう
(歌手 一青窈さん/楽曲提供「耳をすまます」)

● 出演者 VOICE

「死にたいけど、生きたい」

そんな思いがどういうことなのか知って欲しいと思い

出演することを決めました。

(高知県出身/児童養護施設経験者)

過去に虐待を受けて、
親にいい顔して救ってくれなかった人。
今は当時恨んでいたその児童福祉司を
目指しています。

今もまだ内心親を許していません。

だからこそ、

18歳を超えた元保護児童の声を

知って欲しいです。

(大分県出身/里親家庭経験者)

彼女にしか出会えない

言葉があります。

新しく挑む背中を

見守っています。

あなたらしく貫いてね。

(俳優・タレント/サヘル・ローズさん)

● 主催者 VOICE

児童相談所に寄せられる虐待相談件数は、全国で年間20万件以上。これは、平成11年の約18倍にも上ります。また、児童養護施設や里親家庭で暮らす子どもたちの6割程度が、被虐待を経験していると言われています。これは、私たちの暮らす街、宮城県、仙台市も同じことです。

私たち大人がこうした子どもたちの自立と人生を考えると、その当事者の声を聴き、まずはしっかりと受け止めることが何よりも大切なのではないのでしょうか。

本企画は、映画上映を通して、多くの当事者のリアルボイスに、広く一般市民の方々と共に耳を傾け、気持ちを寄せ合い、里親制度への理解と普及促進をはじめとした、より良い共生社会への一歩にと企画いたしました。ぜひ、ご参加下さい。

虐待は
大人になって
終わりじゃない

私たちは今日を必死で生きています。

私はここまで生きてこれました。

過去のことじゃないです。ずっと苦しみました。ですが、沢山の方々の助けがあったからこそ、

時間とともに「忘れる」ということを知って欲しいです。

私の歌で「この手に抱きしめたい」という歌をこの映画の制作にプレゼントしているんですね。この映画のテーマとしてぜひ皆さんに聞いていただきたいと思っています。

(歌手 加藤登紀子さん
楽曲提供「この手に抱きしめたい」)